

2 15年間の子どもの育ちや学びを地域ぐるみで支援する仕組み

－ 「地域協育ネット」 －

「地域協育ネット」は、幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの育ちや学びを地域ぐるみで見守り、支援することを意図した体制です。「地域協育ネット」の「協育」という言葉には、学校・家庭・地域が「協」働して、子どもたちの生きる力を「育」むという思いが込められています。

具体的な形は市町の考えや地域の特性により一様ではありませんが、県教委では、次の点を重視しながら各地域の仕組みづくりを支援しています。

(1) 中学校区を一まとまりとした運営

幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの育ちや学びを、継続的に地域ぐるみで見守り、支援するという意図から、概ね中学校区を一まとまりとした体制づくりを推進しています。

(2) 推進母体となる組織の確保

校区の課題を共有し、支援活動を企画立案するための協議の場となります。現在、取組が進められているほとんどの地域では、公民館や学校運営協議会などの既存の組織を生かしながら運営がなされています。

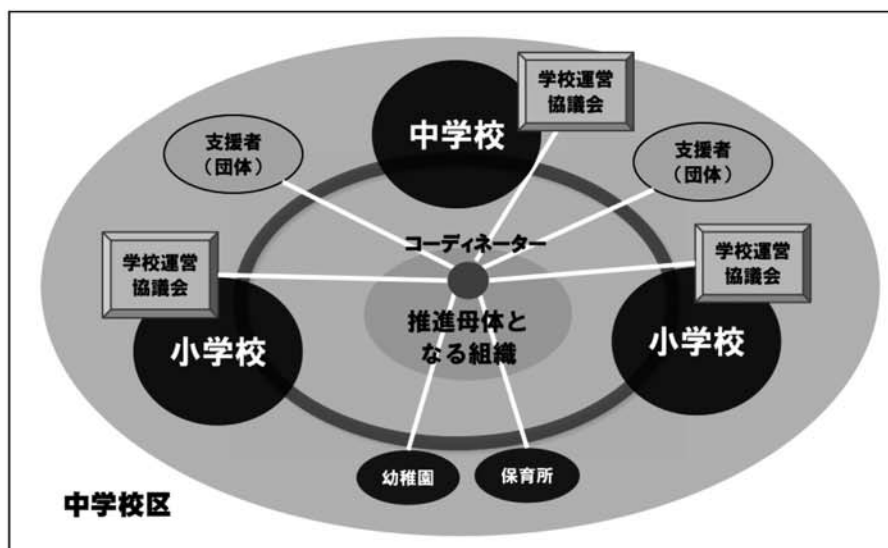
(3) コーディネーターの配置

学校や支援組織・団体等との連絡調整を担います。「地域協育ネット」においては、キーパーソンとして、その果たす役割は非常に重要です。本県では、年間4期に分けて研修会を開催し、コーディネーターの養成に努めています。

(4) 学校運営協議会の設置

学校が地域住民の思いやニーズを共有し、地域に開かれた学校経営を継続的に進めていくために、市町教委と連携して各学校での設置を進めています。

また、子どもたちと地域住民の日常的なふれあいを促進し、多様な人々とのかわりの中で、子どもたちの学びや体験をより豊かなものにするとともに、学校が地域の人づくりや絆づくりに貢献できるよう、地域住民の学びの場・交流の場としての学校施設の開放を推進しています。



「地域協育ネット」のイメージ